

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 「幸せな国」にするために

福島市立蓬萊中学校

3年 山元 優里佳

私の祖父母は旅行が好きだ。国内の観光地はもちろん、数年前までは海外の国々へもよく出かけていた。祖父母が旅行から帰って来るたびに、私は様々な土産話を聞かせてもらった。特におもしろかったのは、ヨーロッパの国々を旅行したときの話だった。

祖父は、レストランに入って水を注文したら、お金をとられた話や、街中の公衆トイレに入ろうとしたら、お金を払わないと利用できなかった話など、日本とヨーロッパの国々の違いを、おもしろおかしくいろいろ教えてくれた。その中でも特に印象に残ったのは、「50ユーロの物を買うと、だいたい60ユーロぐらい払わなきゃなんねえんだぞ。」という、消費税が高くて驚いたという話だった。

私は、ヨーロッパの国々の消費税は一体何%ぐらいなのだろうと思い、早速調べてみた。その結果、ドイツでは16%、フランスでは19.6%、イタリアでは20%、そしてスウェーデンでは、なんと25%と想像以上に高い税率なのに驚いた。それと同時に、なぜ、これほど高いのかという疑問がわいてきた。

私は、ヨーロッパの中でも特に税率が高いスウェーデンについて調べてみた。「スウェーデンレポート、スウェーデンで見た『福祉国家』の実態」によると、教育費や医療費において、手厚い社会保障が確立されていることがわかった。

一番驚いたことは、小学校から大学までのすべての教育費が無料ということだ。教科書やノートなどの教材費はもちろん、給食費までが無料だという。日本においては、小中学校の義務教育でこそ、教科書は無償で給付されるが、高校や大学では、そういうわ

けにはいかない。まして、高校や大学では、入学料や授業料だって負担しなければならない。教育の機会均等というが、経済的な理由で進学をあきらめる人もいるという話を耳にしたこともある。

また、医療費についても日本より軽い負担で済んでいることがわかった。20才未満は、無料であるほか、それ以上の年齢の人はどんなに受診しても、1年間に支払う医療費の上限が、日本円で約1万円というのだ。私が住む福島市では、18才未満の人の医療費は無料であるが、それ以外の人には、3割を負担しなければならない。スウェーデンと比較すると日本国民の負担が大きいことがわかる。

日本の消費税は、この4月から8%に上がった。ヨーロッパと比べると低いけど、決して負担が小さいわけではない。しかし、社会保障という面では、ヨーロッパよりも十分ではない。これまで、増税に対し批判的な考えを持っていたけど、ある程度の増税は仕方がないのではと思うようになった。税金を有効に使い、国民が「幸せな国」と感じることができるよう、社会保障を充実させていって欲しい。